

# みほとけ

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺990

T E L 048 - 794 - 1759

F A X 048 - 794 - 3388

E-mail jyougenji@hotmail.com



## 常源寺と檀信徒をつなぐ

### はる き くさおの しょう 春来たらば草自ずから生ず

4月当初に気温の低い日が続いたこともあり、今年の桜は開花宣言から満開までに2週間程の時間がかかりました。例年は散ってしまう花びらも、今年は入学式の頃にちょうど満開となり、桜の花が新入生の新しい門出を祝っているかのようでした。いつ満開の桜が見られるのか、そわそわとした気持ちになった方も多かったのではないのでしょうか。

禅語の一つに「春来たらば草自ずから生ず」という言葉があります。春になれば草は自然に芽吹くという意味です。春が来て暖くなれば桜の花は自然と芽吹き、やがて自然と満開になります。それが自然の摂理であり、私たち人間にはその時期を早めることも遅らせることもできません。

目標に向かって努力していてもなかなか思うように結果が出せないことがたくさんあります。そんなときは落ち込んだり、嘆いたりせずに、まだその時期が来ていないのだと考えてみてはいかがでしょうか。春の花である桜が冬に咲いても寒さですぐに枯れてしまうように、逆に秋の野菜が夏に実をつけても暑さで痛んでしまうように、強引に進めても機が熟していないと失敗してしまうものです。大切なのは心に余裕をもつこと。頑張っているでも自分の思うように成果が出ないときは、今はまだ必要な準備が整っていないのだと考え、焦らずに自分がその時にできることを精一杯コツコツと続けましょう。季節を選んで咲く花のように、一心に打ち込んでいれば、然るべきときにきちんと成果があらわれるかもしれません。



境内に咲く枝垂れ桜

#### ■ 暮らしの中の仏教用語

##### 達磨 (だるま)

子どもの遊びである「ダルマさんが転んだ」としても知られ、縁起物とされるダルマは、中国禅宗の開祖とされる菩提達磨という人物の坐禅をしている姿をモデルにしたものです。

菩提達磨は、南インドの禅僧で、6世紀のはじめに中国に渡り、各地で禅の教えを広めました。これは私たちの曹洞宗の起源ともなっていると考えられており、曹洞宗の寺院には必ず達磨像が安置されています。しかし、その生涯には伝説が多く、謎に包まれている部分も多くある人物です。

達磨は少林寺というお寺で壁に向かって9年間もの間坐禅を続けていました。そのために手足が腐ってしまったとの伝説から、手足のないダルマの像ができたと考えられています。また、この達磨の不屈の精神が縁起物のダルマになったのだと思われます。

#### 自然葬永代供養墓苑 清蓮の苑

このたび、常源寺の境内に自然葬型永代供養墓苑「清蓮の苑」を開園いたします。これは、お墓の管理や後継者が心配な方等を対象とした自然葬型の新しい形のお墓で、将来にわたって常源寺が責任をもって永代供養をさせていただくものです。令和7年5月より受付を開始いたします。将来的に墓じまいを検討している常源寺の檀信徒の方の方はもちろん、檀信徒ではない方、現在他の寺院にお墓をお持ちの方のお申込みも受け付けております。詳細については直接常源寺までお問合せください。墓地の見学は随時受け付けております。

## ◇ 仏教なんでもQ & A ◇

### Q お通夜とはどんな意味があるのですか？

A 曹洞宗における葬儀は、お亡くなりになられた方とのお別れの儀式というだけでなく、故人様を仏教の開祖であるお釈迦様のお弟子様にするという大切な意味があります。

そして、お通夜は、お釈迦様がお亡くなりになった時の様子が由来となった法要です。お釈迦様はお亡くなりになる直前に「私の死にゆく姿が最後の説法だからよく見ておきな」とお弟子様たちに遺言を残し、最期を迎えられました。その後、お弟子様たちは夜通しお釈迦様の遺された教えを確認し合い、お釈迦様亡き後の歩む道を定められました。このことがお通夜のもとになったと考えられています。亡くなった故人様がお釈迦様、御遺族が遺されたお弟子様たちを表しているのです。そして、導師である住職が遺言として故人様に代わってお経を唱えます。お通夜とはまさに、故人様をお釈迦様に見立てたお釈迦様の最期の姿の再現なのです。

最近ではコロナ禍の影響もあり、お通夜を行わずに葬儀を一日で行ったり、簡略化したりするケースが増えています。葬儀の場で感染者を出したくないという御遺族や葬儀関係者のお気持ちからしたら当然のことですが、お通夜は仏教をお開きになったお釈迦様の最期にちなんだ大切な法要ですから、仏教の信仰のもとにお通夜を営む以上、安易に省略できるものではありません。

「お通夜は省略してもいいもの」だという考えが広まっているようですが、今一度お通夜の意味を見直し、故人様と御遺族が関係を結び直す大切な仏縁の場であるというお通夜本来の意義を忘れずにいたいものです。

## 春季彼岸会を厳修しました

3月20日（木）春分の日、春季彼岸会を厳修いたしました。前日に降った季節はずれの雪が境内に残り、やや肌寒い中での彼岸会法要となりましたが、多くの檀信徒の方に御参列をいただきました。常源寺檀信徒の皆様の家門繁栄、諸縁吉祥を御祈願した後、皆様の御先祖様、永代供養墓に合祀されている故人様、有縁無縁すべての精霊に対しての御供養を行いました。また、お彼岸期間中はたくさんの方がお墓参りに訪れ、境内の墓地には色とりどりの花がお供えされました。



## 護持会役員総会を開催しました

4月26日（土）、常源寺護持会の役員総会を開催いたしました。令和6年度の護持会費会計監査を行い、役員の皆様の承認をいただきました。また、今年度の常源寺の事業等について御説明し、役員の皆様からさまざまな貴重な御意見をいただきました。

## □■□「クールビズ」の実施について □■□

常源寺では、長年の実施により社会慣習として定着していることや、現下の気候等を踏まえ、環境省の方針に基づき、5月1日より10月31日までの期間、御法事等の山内での行事におきまして「クールビズ」を実施いたします。

気温が高くなる日は、本堂並びに瑞雲閣（御法要控室）でエアコンを使用し、室温の適正化に努めますので、御法事等の際に着用する礼服は上着を脱ぎ、ネクタイをはずして、半袖シャツにて御参列いただいて結構です。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。